

ミネソタ便り

05・01・10 平野茂樹

ミネソタの微笑み

.....

みなさんお元気ですか？

一部年末に、一部年があけてからと妙なタイミングで「新年の言葉」を受けていただきありがとうございました。

一部の人からは「返歌」までいただき恐縮しております。

学校のネット設備が年末、年始使用できなかったため「帯に短し、襷に長し」の年賀送信をせざるをえ

ませんでした。あしからず。

なぜ、ふたつに分けたのか？ですって！

早く伝えたい人には、失礼を覚悟で年内に。失礼があってはならないが、是非とも伝えておきたい人には年があけてからと、思ったのですが、よく考えてみると全部反対だったようにも？！？！？！？！？！

多くの方から驚きと励ましの返事をいただき、うれしくなり、来てよ

かったと思っています。中にはあきれ返っている方もいましたが、ほとんど血縁者でした。一人だけ血のつながりのない人もいましたが、誰かもうお分かりでしょう。

興奮が醒めたいま、必要以上に長い駄文を眺め返してみると、ちょっと格好よすぎたか

もしれませんね。

きょうは、お口直しではなくお耳直しに赤っ恥かいた話を聞いてください。

.....

最大の行事、クリスマスが過ぎた年末に地元の有力者が集まって Refreshments を行うパーティが個人の大邸宅でありました。

学校の私を含む全先生 10 人に招待状がきたので行ってきたときの話です。

いちばん緊張する場への挑戦です。妻帯者は夫妻で来ていることはわかっていますので、ご婦人への対応をある程度準備してゆきました。質問攻めにあうと半分以上 What did

you say? Excuse me. Please! となることは、あきらかなので、こちらから先に名乗って、相手の Call me XXXX と書いた Nickname か Short name をきちっと聞いたなら、すかさず次のテーマを持ち出すことに決めていました。「日本では単身で長期家族のもとを離れることはさして特別のことではなく、単身赴任ということが普通に行われています。これは、ひとつには子弟の教育問題が大きく絡んでいるのですが、アメリカでは考えられないことなんでしょうね？」と。すると反応はさまざまですが、半分

は何をどう答えているのかわかりませんが、まわりの騒音と次の人へのあいさつでなんとか流れて行きました。

あるご婦人の番になったとき、ちょっと慣れたので相手に質問させるタイミング



わたしのステイしている家の主、71歳、Marlyn Raymond。田舎のジョンウェインと言ったら怒ったので、ミネソタのジョンウェインと言いだしたらすぐきげんを直すあたりジョンウェインです。

を与えてしまったのです。すると Did you miss your wife? と聞こえた。

.....

半分以上、想像の世界で会話をつないでいる私には、私の説明が不十分だったので、ご婦人には私が妻を病気か何かで失い、それで一人で来ているとうつったのだらうと思ひ込み、Oh no! She is living now in my home town. と平然と応えたら Oh excuse me! と言って去っていった。離れ際のなんともいえぬ表情を今でもはっきり覚えている。



私は歴史上「モナリザの微笑み」に次ぐ、新しい「ミネソタの微笑み」をそのご婦人の表情につくらせてしまったようだ。このとき私は、知らぬ間に離婚した日本人に

なっていた。

もう一度正確に会話を追ってみよう。

質問「あなたは、さぞかし奥様のことを想っていらっしゃるのでしょうか？」

答え「いいえ、妻はいま私の町にすんでいますが」

.....

ご婦人は、聞いてはいけないことを聞いたしまった。なぜ事前に日本語教師が離婚してここに来ていることを確かめておかなかったのだろうか？ 心痛むことを聞いてしまった！ Excuse me! となったのでしょうか。いっときの談話と食事のあと、ポーカーやダイスを5つ使った面白い賭け事(すべて現金クワーター玉を使ってやります)をやって楽しんだころには、誤解はすっかり解け、無事、離婚騒ぎはおさまったのですが、いまでもそのご婦人に会うと私は「東洋人の不思議な笑み」に戻ります。

私は、日本のカラオケで十八番として「ダニーボーイ」を英語で歌い、歌詞の最後を心を込めて「Oh Dany Boy I miss you so」と40年近く歌っていたにもかかわらずである。

Cool! Oh My God!